

助動詞“可以”が表す「勧め」について

On “Suggestion” the Modal Auxiliary “可以” Means Pragmatically

森 宏子*

Hiroko Mori

助動詞“可以”の「勧め」の用法について論じる。当該用法はこれまで辞書や参考書などでも指摘はみられるが、必ずしもその特性が明らかにされてきたわけではない。本稿は助動詞“可以”がその中核的意義である「許可」から「勧め」へと拡張する動機および文脈の要件を考察し、“可以”の「勧め」表現の特質を明らかにする。

キーワード：可以、許可、勧め、価値判断、モダリティ

1. はじめに

中国語教育において助動詞は初級段階で学ぶ重要文法事項のひとつであり、教育現場の関心も高く、これまでに数多くの研究成果が残されてきた。助動詞“可以”についていえば、従来、可能表現（「～デキル」）の側面から助動詞“会、能”との対照比較に関心が寄せられてきた。もはや言うまでもないことだが、“会”は「技能を習得してデキル」、「能」は「能力・条件的にデキル」、「可以」は「許可されてデキル」と棲み分けされる。しかるに“可以”は可能表現だけに留まるものではなく、本稿に取り上げる「勧め」の用法などもあり、当該用法については辞書や参考書、教科書などに多々指摘は見られるものの、必ずしもその特性が明らかにされてきたとは言い難い¹⁾。

ここでごく簡単に“可以”の用法を確認しておく。

- (1) a. 这儿可以抽烟。 …… [許可]
(ここはタバコを吸ってよい)
- b. 我明天可以去。
(私は明日行けます)
- c. 这本书写得不错，你可以看看。 …… [勧め]
(この本はよく書けてるから、読んでみるといいよ)

(1-a)、(1-b) はよく教科書に出てくるおなじみのものである。(1-b) はいわゆる「条件が整ってデ

キル」で、このタイプは「～シテカマワナイ」という日本語をあてるとうまく訳せる場合が多い²⁾。
 (1-a) と (1-b) は要するに「その行為が許される (差し支えない) 状況にある」ということでひと括りにすることができる。そして (1-c) が「勧め」のタイプである。ここでもう一例見られたい。

(2) [帰国予定の劉さんが山本さんを中国へ誘う場面]

刘 : 那你也一起去, 怎么样?

山本: 真的? 太好了!

刘 : 你可以住我哥哥家。 (中国語つぎへの一步: 10)

(劉: じゃあなたも一緒に来れば? / 山本: ほんと? それはいいね! /

劉: 私の兄の家に泊ればいいわ)

例 (2) は筆者が授業で使用している教科書に出てくる会話の一部分である。学生たちはこの“可以”を「泊ることができる」とか「泊ってよい」などと訳しがちであるが、この場面は会話の流れからみても「許可」ではなく「勧め」として読まなければならない。なぜなら劉さんは山本さんに自分の兄の家に泊ることを提案しているのであるから。「泊ってよい」はまだしも許容度が上がりそうだが、それはまさに「許可」と「勧め」が連続するものであることを物語っている。おそらくそれゆえに従来「勧め」と「許可」を特に区別してこなかったのかもしれない。しかし、日本語話者の語感からすると、「勧め」の“可以”は「～デキル」とか「～カマワナイ」という「許可」的な訳し方では収まりきらず、「許可」から踏み出したものと思われる。

本稿は助動詞“可以”が「許可」から「勧め」へと拡張する動機および文脈的要件を考察し、“可以”の「勧め」の特質を明らかにしたい。

2. 先行研究と問題点

これまで“可以”の「勧め」の用法を正面から取り上げた研究は寡聞にして知らないが、本稿にとって差し当たり重要と思われるのは、武信彰 1999 と楊凱榮 2011 である。前者については次節で触れる。

さて、楊凱榮 2011 も“可以”の「勧め」について論じたものではないが、“可以”の可能表現を論じる流れの中で少し触れる部分があり、次のような指摘をしているのが注目される。

(3) 楊凱榮(2011:67)

有事可以来找我。 (用事があったら訪ねてきてください)

有空儿可以去公园散散步。 (時間があれば公園に散歩に行ったら?)

你要觉得有意思, 可以去看看。 (面白いと思うなら, 見に行ってみては?)

このような相手による行為に言及する文脈ではしばしば、“可以”を日本語の「～してよい」、「～してかまわない」といった許可の形式で訳すことは難しく、「勧め」の表現で対応しなければならなくなる。しかし、許可と勧めはそもそも意味的につながっており、(中略)両者は共に「あることを行うのに妨げとなるものが存在しないこと」を聞き手に伝える表現である。

“可以”が表す「勧め」が「あることを行う妨げとなるものが存在しないこと」という意味から生じているという指摘は重要である³⁾。続けて、「許可」と「勧め」の違いについては次のように述べる。

- (4) 許可(「～していい」)は話し手が相手に許可を求めるか、あるいは相手の求めに応じてその行動を許す言語行為であり、勧め(「～するとよい」、「～してみては?」)は相手に自ら働きかける言語行為であるという点にある。

筆者には(4)の説明が釈然としないのだが、「あることを行う妨げとなるものが存在しないこと」を「相手に自ら働きかける言語行為」が「勧め」だというのなら、それは「許可」にも当てはまることとはいえないだろうか。(4)の説明だけでは「許可」と「勧め」の違いが明確になったとはいえない。むしろ本稿は楊氏の考えを否定するものではなく、楊氏に欠けていると思われる視点を補ってよりよい理解につなげたいと思う。

ここで予め本稿の見通しを述べておくことにする。

当該行為の実行を容認することを相手に伝えるだけでは「勧め」にはならず(この段階では「許可」に留まっている)、「勧め」にはその上に当該事態の実現が「望ましい」とする話し手の「価値判断」が不可欠である⁴⁾と考える。

(5) 仮説

当該行為の実行を容認	…… [許可]
当該行為の実行を容認+望ましいという価値判断	…… [勧め]

3. “可以”の伝達機能

武信彰 1999 は“可以”の「勧め」について論じた数少ない論文のひとつだと思われる。武信 1999 の主張は「勧め」の用法は「発話内行為的用法」であるという点にある。「発話内行為」(illocutionary act)とは、例えば“你可以走了”(あなたは行ってよい)と発話することが「勧め」という行為として機能するということである。前述した楊凱榮 2011 の(4)の部分もおそらく同

様のことを指しているのだろうと思われる。

そこで本節では“可以”の伝達機能に着目した分類を試みることにする。“可以”は中核的意味に「当該事態の実現が容認できる（差し支えない）」をもち、行為者の人称などの条件によって概ね「許可」、「依頼」、「意向」、「勧め」という4つの機能に拡張すると思われる⁵⁾。以下、具体的に実例を挙げて説明する。

①許可

a. 行為者は聞き手。聞き手の行為を、話し手が容認できるものであることを表明する。

(a-1) 你可以进来。 (お入りください)

(a-2) 今天的课就上到这儿吧，同学们可以走了。

(今日の授業はここまでとします。出てよろしい)

(a-3) [目の手術の最中。焦=患者、陸=医師]

焦：我…… 要咳嗽！

陆：等一等。……你可以咳了。

《人到中年:58》

(焦：あの……咳が出そうです／陸：ちょっと我慢して……いいですよ)

b. 質問文の場合は、行為者は話し手であり、聞き手に許可を求める文となる。

(b-1) 我可以进来吗？ (入ってもいいですか)

(b-2) 我可以试试吗？ (試着していいですか)

(b-3) 我可以休息一会儿吗？ (ちょっと休んでいいですか)

(b-4) 现在可以抽烟了吗？ (今、タバコ吸ってもいいですか)

②依頼

①-bと同じく質問文の形をとり、行為者が聞き手のケースである。この場合、聞き手がその行為を容認できるかどうかを質問することによって、その行為の実行を依頼するものになる。行為者が逆転するだけで①-bと同類と見なせないこともないが、機能的には「許可」から踏み出しており「依頼」として区別しておく。

(2-1) 你可以教教我吗？ (私に教えてもらえますか)

(2-2) 你可以给我讲讲京剧的表演艺术吗？

(京劇の芸術性について話してもらえますか)

(2-3) 您可不可以替我打一下电话？（私の代わりに電話をかけてもらえますか）

(2-4) 我看不懂菜单，点菜可以交给你们吗？

（メニューを見ても分からないので、料理の注文は任せていいですか）

③意向

行為者は話し手自身であり、自分自身の行為を容認できることを表明することで、相手に行為の申し出を伝えることになる。これを「意向」としておく。

(3-1) 我可以陪你去。 （付き添って行きましょう）

(3-2) [ホテルでインターネットの使い方を質問し、その回答]

前台：我们给您发一个密码，如果您不会设定的话，我们可以派服务员去帮您设定。

《NHK07-11：66》

（パスワードを発行します。ご自分で設定できなければ、係の者を設定にいかせませす）

(3-3) [留学生の吉川さんが北京の不動産で部屋を探している場面]

吉川：我是留学生，所以没有那么多钱。

公司职员：没关系。到时候我们可以跟业主商量一下。 《NHK06-11：14》

（吉川：留学生なのであまりお金がないのです）

社員：大丈夫ですよ、後でオーナーに交渉しますから）

(3-4) [喘息もちの夫の目の手術について妻がたずねる場面]

秦：万一呢，万一咳嗽起来怎么办？

陆：那也有办法，我们可以立即把切口缝上。 《人到中年：54》

（秦：もし、万が一咳が出たらどうするんですか）

陆：それにも対処があります。すぐに傷口を縫い合わせます）

(3-5) 吴：我可以告诉你，他是典型的右派，再改也改不到他的头上。《牧马人：83》

（君に言っとくがね、あいつはガチガチの右派なんだ、奴の頭は治しようがないんだ）

④勧め

行為者は聞き手である。当該事態の実現が妨げられないことをいうばかりでなく、行為を促す意味をもつ。その動機は、当該事態の実現が望ましい、あるいは、その行為が相手にとって有益である、という話し手の肯定的な評価にある。話し手は「当該事態の実現が望ましい」という述べ方で聞き手に示すことによって、結果的にその行為の実行を聞き手

に勧める機能を有するのだと考えられる。

(4-1) 这个菜很好吃，你可以尝一尝。 (この料理おいしいよ、食べてごらん)

(4-2) 你可以跟他商量一下。 (彼に相談するといいい)

(4-3) 你可以去颐和园。那里有山有水，风景优美极了。

(颐和園に行くといいい。あそこは風光明媚だから)

(4-4) [中秋節で月餅を食べる場面]

爸爸：我不要，我不爱吃甜的。

妈妈：一定要吃，可以吃块儿小的。 《きらきらの童年：111》

(父：僕はほらない。甘いものはきらいだ

母：食べないとダメ。小さいのを食べればいいい)

(4-5) 沈五一：钱，就算我借给你，你有能力的时候还可以还我。 《牵手：42》

(金は君に貸したけど、いつか君が返せる時に返してくれればいいい)

(4-6) [夏小雪は離婚を前に、子供をどちらが引き取るかを、夫と争っている]

夏小雪：不！必须归我！你可以随时来看他。 《牵手：24》

(いいいえ、(子供は)わたしのものよ。あなたは会いたい時にいつでも会いに来ればいいい)

以上、「可以」の用法を伝達機能の観点から分類してみた。「勧め」の他にも「依頼」や「意向」など従来あまり指摘の見られない機能を見いだすことができる。また、相手にとって有益だという話し手の価値判断は、「勧め」のみならず「意向」の表明にも必要であるといえる。そうすることが「望ましい」とみる話し手の価値判断が「勧め」や「意向」表明の動機になっているのだ。以上のことをまとめたものが表1である。

表 1. “可以”の伝達機能と特徴

伝達機能	行為者	容認の向き (→)	備考
許可	聞き手	話し手 → 聞き手	許可を請う(質問文)
	話し手	話し手 ← 聞き手	
依頼	聞き手	話し手 ← 聞き手	許可を請う(質問文)
意向	話し手	話し手 ⇨	ベースに価値判断
勧め	聞き手	話し手 → 聞き手	ベースに価値判断

※ ⇨ は話し手が自分自身の行為を容認することを表している

4. “可以”の価値判断

“可以”が「勧め」や「意向」として機能する時、事態の実現が望ましいとみる話し手の価値判断が動機となっている。“可以”の価値判断はとりわけ次のような用例がよく表わしているといえる。中国で出版される辞書や参考書にはこのタイプの“可以”に“值得”（～スル価値ガアル）の意味を与えており、助動詞“值得”との置き換えが可能であるとの記述が見られる。

(6) 颐和园风景优美，很可以去游览游览。 《实用现代汉语语法：182》

（颐和園は美しいから行ってみる価値がある）

(7) 那篇文章写得不错，很可以读一读。 《现代汉语词典：735》

（あの論文はよくできているから読んでみる価値がある）

(8) 这个问题很可以研究一番。 《现代汉语八百词：338》

（この問題は一度検討してみる価値がある）

このタイプの用例は客体を主語に据えた属性表現の形で挙げられるのが常である。“可以”の前に“很”が添えられていることが多い。しかし、これらの文から“很”を取り、聞き手“你”を明示すれば「勧め」になることは容易に気づかれるであろう。

(6') 颐和园风景优美，你可以去游览游览。 （颐和園は美しいから行ってみれば）

このことから「勧め」の表現には価値判断がベースになっていることが分かる。もっとも主語“你”の有無に関わらず、この価値判断を表わす文は、そう発話することが「勧め」という行為として機能しやすい⁶⁾。

ではそもそも“可以”のこの価値判断とはいったいどこからくるものか。価値判断とはよいことかどうかに関わる判断である。“可以”の中核的意味は「当該事態の実現が容認できる」ということである。つまりそれは事態を「よし」と認めることに他ならない。「許可」も本来的には価値判断に関わるものであるが、事態の実現に妨げとなるものがないという段階に留まっており、事態の実現が積極的に聞き手に要請されてはいないのである。それに対し、事態の実現が望ましく、要請されているという述べ方をするのが「勧め」である。

5. “可以”が表す「勧め」の特徴

最後に“可以”の「勧め」表現をもう少し観察して、その特徴を明らかにしておこう。

例えば、助動詞“应该”（～ネバナラナイ、～ベキダ）も聞き手の行為について用いられると「勧め」として機能する。

(9) 陆：你听我说呀，你应该搬到研究所去住。这样你就有时间了。 《人到中年：56》

(ねえ聞いて。あなたは研究所に移って暮らすべきよ。そうすれば時間もできる)

“可以”の「勧め」と比べてどうだろうか。妥当性を中核的意味にもつ“应该”の方は聞き手への要請力が増すようである。

(10) 你听我说呀，你{应该/可以}搬到研究所去住。

(研究所に移って暮らすべきだ/暮らすとよい)

(11) 这个菜很好吃，你{可以/应该}尝一尝。

(この料理おいしい、食べてみて/食べてみるべきだ)

“应该”に比べると“可以”はむしろ控えめにさえ感じられる。“可以”も“应该”もいずれも、相手にとって有益な提案をしているのだが、“应该”は話し手がベストだと思う提案をしているのに対し、“可以”は可能性の一つを提案しているというニュアンスを感じる。“可以”の方は、他にも選択の余地はあるという含みが感じられるのである。相手がノーという選択肢も容認する態度にある。こういうとまるで消極的な態度にも感じられるかもしれないが、事実はそうではない。話し手は相手にその行為の有益性に気づいてほしい、そうしてほしいと強く関心を寄せてはいるのだが、一方で相手の意向を尊重する気持ちもあるので、一見、消極的な態度は、ここでは相手への配慮として機能しているとみられる。つまり“可以”の「勧め」は高度に配慮表現(politeness)でもあるわけである。

また興味深いことに“可以”の「勧め」は、たとえ望ましいことであっても、「しないよう」に勧める表現には発展しないようである。たとえば、しないように勧めることを述べる次の日本語文を“可以”を用いて訳そうとしても訳せない。

(12) 近頃北京は空気が悪いから、行かない方がいい。 …… [勧め]

a. 最近北京空气不好，你可以不去。

b. 最近北京空气不好，你别去。 or 最好你不要去。

(13) この料理ちょっとにおうから、食べない方がいい。 …… [勧め]

a. 这个菜有点儿味儿，你可以不吃。

b. 这个菜有点儿味儿，你别吃。 or 最好你不要吃。

上例(12a)、(13a)の“可以”は「許可」としての「行かなくてよい」、「食べなくてよい」という意味しか表しえない、従って日本語文と同価ではない。日本語文にそったものにするならばb.

のように改めなければならない。これはいったい何に起因するのだろうか。

前述したことに関連するが、“可以”が表す「勧め」は要請力が弱く、「したらどうか」の勧めは「しなくてもさしつかえない」という含みをもち得るが、その反対の「しないように」という勧めには「してもさしつかえない」という含みが成り立たないからではないかと思われる。「しないように」という勧めは、もはや聞き手にその行為の実行を要請する述べ方なのである。

またこのことは、助動詞“可以”の肯定形と否定形の非対称性を想起させる。すなわち“可以”は相手が行為を実行しないことを容認することはできるが、

- | | | |
|------------------------------|---------|----------------|
| (14) 不愿意的话, 你 <u>可以</u> 不去。 | …… [許可] | (いやなら行かなくてよい) |
| (15) 不喜欢的话, 你 <u>可以</u> 不吃。 | …… [許可] | (きらいなら食べなくてよい) |
| (16) 你可以参加, 也 <u>可以</u> 不参加。 | …… [許可] | (参加してもしなくてもよい) |

相手の行為を制止する「禁止」には使用しにくいという言語現象とも通底していると考えられる。

- (17) A: 我可以走了吗?
 B: ?? 不可以 / 不行 …… [禁止]
 (A: もう行ってもいいですか? B: だめ)

6. おわりに

助動詞“可以”の「勧め」の用法について考察した。「勧め」の用法は、“可以”の中核的意義である「許可」から、第4節で触れた「価値判断」を表す用法を仲介して拡張するものと考えられる。

また、「勧め」の“可以”をモダリティの観点から論じることも可能である。モダリティの観点からいっても「勧め」の“可以”は「許可」や「価値判断」の“可以”とは一線を画す。「勧め」の“可以”は話者指向(speaker-oriented)、「許可」や「価値判断」の“可以”は主語指向(subject-oriented)と区別される⁷⁾。このように「勧め」の“可以”が構文的にも「許可」や「価値判断」の“可以”とは異なる特性を有することは知られてよい。

最後に教学上においても、初級テキストで必ず取り上げられる“可以”であるならば、「許可されてデキル」に留まらず、実際の運用においては「勧め」として機能するケースが多いことも学生に指摘しておくことは大切だと思われる。

注

- 1) “可以”の「勧め」の用法は、日本では早くから指摘されてきたものであったが、中国で出版される辞書や参考書にはほとんどその指摘が見られない。これは日本人が中国語を日本語に翻訳する過程で気づきやすい現象であったと指摘されている。武信 1999 参照。
- 2) 荒川清秀 (2003:187) 参照。
- 3) このことは文字通り「差し支えない」の意味を表す“不妨、无妨”がムード副詞となって「勧め」の意味機能を有することにも平行している。最後の例のように“可以”ともよく共起する。
 - ・ 有意見**无妨**直说。 《现代汉语词典第6版:1373》
(意見があるなら直接言えばよい)
 - ・ 我吃萝卜治好了痛风,你**不妨**也试试! 《人民网》
(大根で痛風が治りました、あなたもお試しあれ!)
 - ・ 如果你想连品牌也换了, **不妨可以**考虑一下江淮刚刚推出的瑞鹰。 《人民网》
(もし別のブランドに乗り換えようと思っているなら、江淮から出たばかりの瑞鷹を考えてみてはいかがでしょう)
- 4) 価値判断については益岡隆志 2002 を参照。
- 5) “可以”の機能分類は日本語記述文法研究会編 (2003:117-122)、宮島・仁田編 (1995:235-252) を参考にしている。
- 6) とはいえ“值得”の意味をもつ“可以”は“很”の修飾を受けたり、次の用例が示すように“我觉得”より内側に立つことから命題レベルの要素であるといえる。
 - ・ 他觉得路远, 不值得去, 我倒觉得还**可以**去看看。 《现代汉语八百词:338》
(彼は遠いから行くには及ばないと思っているが、私はやはり行ってみた方がいいと思う)
それに対して「勧め」の“可以”は命題の外に飛び出したもの(モダリティ modality)である。
- 7) このように助動詞に異なる2つの意義があるとする見方は方梅 2013、古川裕 2006; 2013などを参照。

参考文献

- 方梅 2013. <助動詞在汉语口语中的虚化>、『木村英樹教授還暦記念 中国語文法論叢』、pp. 1-14
- 古川裕 2006. <助動詞“要”の语义分化及其主观化和语法化>、『对外汉语研究』第2期、pp. 97-107、商务印书馆
- 古川裕 2013. <现代汉语助動詞“应该”的情态解读及其切换机制>、『木村英樹教授還暦記念 中国語文法論叢』、pp.15-21
- 荒川清秀 2003. 『一步すすんだ中国語文法』、pp.187、大修館書店
- 武信彰 1999. 「“可以”の発話内行為的用法について —辞書記述の「規格化」の視点から」、『中国語』1999-6月号、第473号、pp. 27-32、内山書店
- 日本語記述文法研究会編 2003. 『現代日本語文法4 モダリティ』、pp. 117-122、くろしお出版
- 宮島達夫・仁田義雄編 1995. 『日本語類義表現の文法 (上)』、pp. 235-252、くろしお出版
- 益岡隆志 2002. 「判断のモダリティ 現実と非現実の対立」、『日本語学』2002-2月号、vol.21、pp.6-16、明治書院
- 楊凱榮 2011. 「能力・状況・技能を表す助動詞 —中国語の可能表現」、東京大学言語情報科学専攻編『言語科学の世界へ』、pp. 61-76、東京大学出版会

用例出典

《现代汉语八百词》(增订本)、吕叔湘主编、1980(2001)、商务印书馆

《实用现代汉语语法》(增订本)、刘月华・潘文娣・故轡、2001、商务印书馆

《现代汉语词典》(第6版)、商务印书馆、2012

NHK テレビ中国語講座テキスト

《人到中年》、NHK テレビ中国語講座テキスト 1987年8月号

《牧马人》、NHK テレビ中国語講座テキスト 1987年8月号

《牵手》、NHK テレビ中国語講座テキスト 2001年1月号

『中国語入門 きらぎらの童年』、相原茂・殷文怡、朝日出版社

『中国語つぎへの一歩』、尹景春・竹島毅、白水社

人民网 = <http://www.people.com.cn/>

※なお平易な用例については出典を特に明記していない。すべて初級テキストから採取したものである。